「祝！同窓生が准教授就任」

この度、２期生の正本仁先生が母校の女性・生殖医学（産婦人科）講座准教授に、同じく２期生の溝部宏二先生が追手門学院大学心理学部心理学科准教授に就任されました。我々同窓会会員にとっても大変喜ばしいニュースですので、今後の抱負について寄稿していただきました。

同窓会の皆様へ

琉球大学大学院医学研究科 環境長寿医科学女性・生殖医学分野（産婦人科）准教授　正　本　仁（２期生）

同窓会の皆様、御無沙汰しております。第１期生（留年し卒業は２期生と一緒）の正本です。このたび平成21年11月１日付けをもって琉球大学大学院医学研究科 環境長寿医科学女性・生殖医学分野（産婦人科教室）の准教授を拝命しました。

卒業と同時に1988年４月、産婦人科教室に入局後、関連病院での勤務もありましたが、計21年間本教室で診療と臨床研究に従事してきました。

近年、産婦人科、とくに私が専門としている周産期分野は、きつくて訴訟の多い科との風評があり、一時期当科でも入局者が激減しました。しかし平成18年より教授として青木陽一教授が就任されたのを契機に、当時医局長だった自分が、自分の研究・業務を投げ打ち、自腹の飲み会も含めてひたすら入局勧誘に努めた甲斐あって、平成20年度には７人の後期臨床研修医が入局し、その後も多くの人材が集まるようになってきました。このように医局員が多くなると、私の仕事も楽になると密かにほくそ笑んでいましたが、准教授となってからはや５ヶ月、その予想は見事に裏切られました。後輩医師の指導に割く時間が増え、論文や学会発表を校正するから、早めにもってこいといっても期日は守らないＯ君やＳ嬢に悩まされ、自分の仕事は常に後回しとなっております。しかしながら、これら若い人材が医師として成長していくこの大事な時期に、医学教育者としての我々を信じ自分の才を預けてきたわけですから、その期待に応えるべく、がんばらねばと自らを励ましております。

４月より、新１年生の指導教官にも任命されました。思えば、進級試験や卒業試験では、追試の常連で、当時指導教官であった麻酔科の奥田教授にはかなり心配をおかけした自分が、指導教官という立場になったことに、なにやら不思議な感じがします。かような学生時代の経験を生かしながら、新１年生の学生生活を支援していきたいと思います。

診療・研究に関しては、産科・周産期のなかでも不育症の診断と治療に関する研究に携わっております。何度も流死産を経験し、悲しい思いをされた患者さんに対して、ともに考え、治療を行い、結果元気な赤ちゃんをつれて喜んで退院していくのを見るにつけ、この分野を選んでよかったなと思います。もうやめられません。

若いときには何でもなかった当直翌日の手術や外来診療が、体にこたえるようになりました。そんな時、南風を通して知る同窓生の皆様のがんばりは、私にとって本当に励みになります。同窓会の皆様のご健康とますますのご発展をお祈り申し上げます。